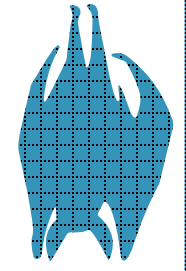




インターゼミ・アジアダイナミズム班



# 「パンデミックの ユーラシア史と ポストコロナ」

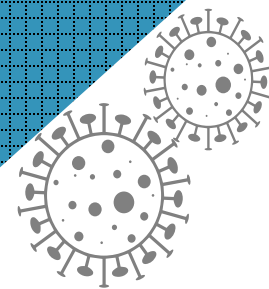
～モンゴル帝国史を起点としたペスト(黒死病)の欧州と日本の中近世史～

学 部 生 : 小出 幹、柳沢 悠介、池田 賢吾

大学院生 : 半田 敏章、三田 大祐、山内 美恵子、北山 智子

修 了 生 : 光永 和弘、塚原 啓弘、和泉 昌宏

指導教員 : 金 美徳 水盛 涼一



# 目次

1

**論文の構成**  
問題意識、論文の章立て

---

2

**研究内容**  
各パート研究報告

---

3

**フィールドワーク**  
報告、実施予定

---

4

**参考文献**  
書籍、論文

# 問題意識

## 1. モンゴル帝国とパンデミック

- ①ウイルスや細菌との共生と国家維持の間に相関はあるか(半田)

## 2. 欧州のパンデミック

- ①ペストの感染拡大の原因と対策(池田)
- ②ペスト後の人口減少の影響と、社会構造の変化について(三田)
- ③宗教・芸術・ユダヤ人迫害に見るペスト前後の欧州人の心性の変容(小出・北山)

## 3. パンデミックの日本への影響

- ①日本の神仏信仰と疫病の関連性(山内)
- ②13世紀から15世紀の日本と感染症(光永)
- ③江戸時代日本がコレラから受けた影響(柳沢)
- ④科学の進歩と日本における感染症(光永)
- ⑤感染症への日本人の貢献(光永)
- ⑥地政学的視野から見た日本における感染症(光永)
- ⑦現代に生きる日本人特有の衛生観念と気質・文化(光永)

# テーマ構成

## 1章

### モンゴル帝国とパンデミック (半田)

---

## 2章

### 欧州のパンデミック (北山・三田・小出・池田)

---

## 3章

### パンデミックの日本への影響 (光永・山内・柳沢)

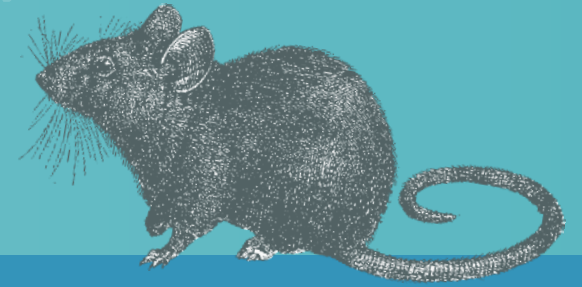
---

## 4章

### 現代的意義とポストコロナ (塚原・和泉)

# 関連年表

| 世紀   | モンゴル<br>(13～14世紀 200年間)                           | ヨーロッパ(1～14世紀 1300年間)                                | 日本(4～19世紀 1500年間)                                                                         |
|------|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| ～6世紀 |                                                   | 70年 エルサレム破壊<br>ユダヤ人のディアスポラが始まる<br>541年 ユスティニアヌスのペスト | 日本書紀による最初の疫病の記録<br>552年 仏教伝来                                                              |
| 11世紀 |                                                   | 1096年 第一次十字軍                                        |                                                                                           |
| 13世紀 | 1206年 チンギスカーン即位<br>1252年 ビルマよりペスト流入<br>1271年 元 成立 |                                                     | 1274・1281年 元寇                                                                             |
| 14世紀 | 1331年 ペスト全土に拡大<br>1347年 カップファ攻防<br>1368年 明 成立     | 1347年 カップファ攻防を経てペスト<br>(黒死病)入欧                      | 日本にペスト流入せず                                                                                |
| 16世紀 |                                                   |                                                     | 1510年頃 梅毒流入                                                                               |
| 19世紀 |                                                   |                                                     | 1822・58・77・79年 コレラ流行<br>1849年 緒方洪庵による牛痘の接種開始<br>1874年～ 長与専斎の衛生行政<br>1897年 北里柴三郎によるペスト菌の発見 |



# 研究報告

## 1. モンゴル帝国とパンデミック



# ペストとは

## 〈語源〉

ラテン語: **ペスティス (Pestis)**

古来サンスクリット語: **ピー (Pvi)**

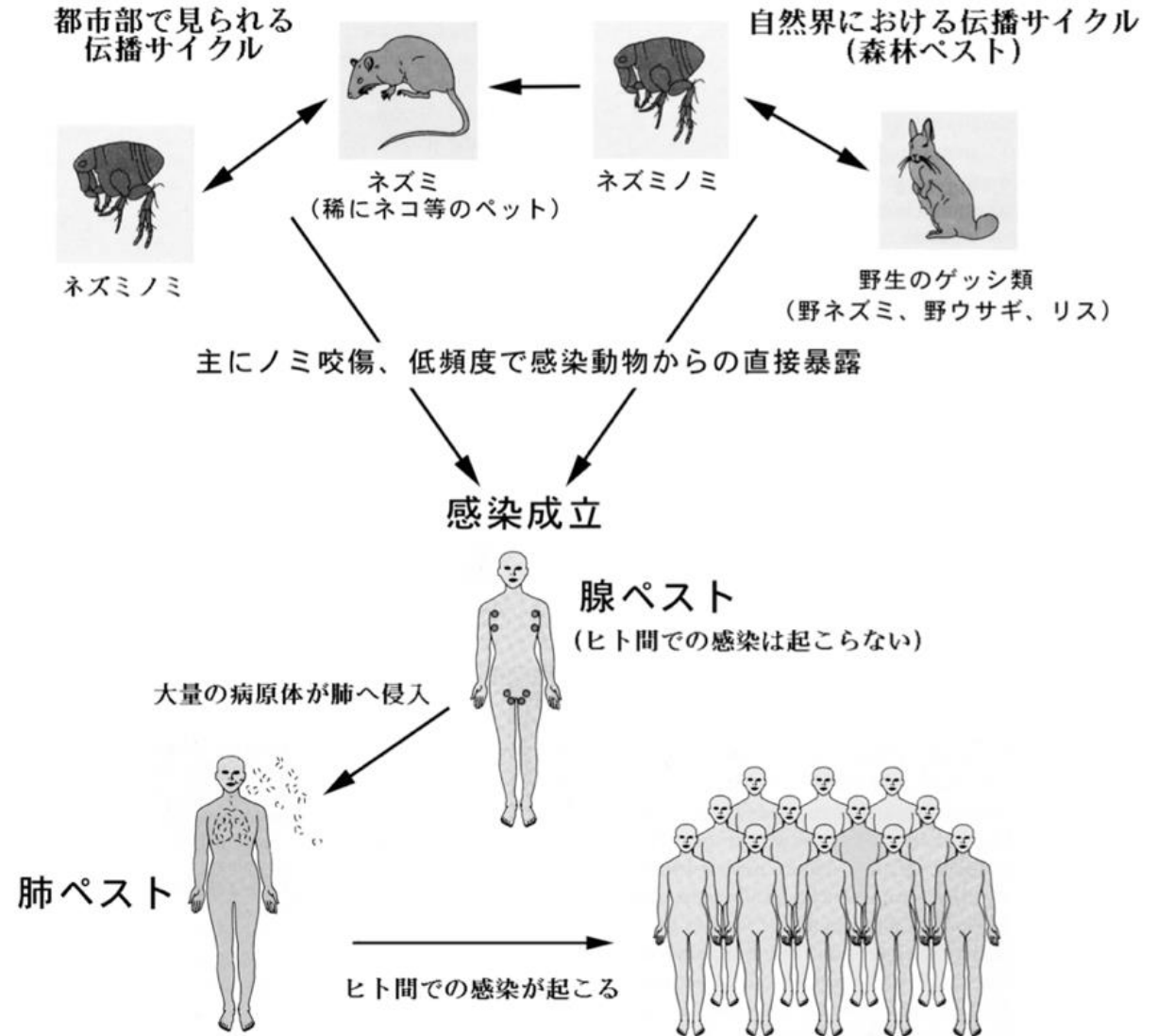
意味は「**流行**」「**破滅**」

全世界で2億人が死亡と考えられている

1 エルシニア属細菌の一種, ペスト菌  
感染に起因する全身性の侵襲性感染症

2 **げっ歯類を保菌宿主**  
主に**節足動物(ノミ等)**によって伝播

3 **腺ペスト**(ノミ媒介)、**敗血症ペスト**、  
**腺ペスト**(空気感染)が感染経路



# “ペスト菌の発見”

1894年(明治27年)6月14日  
流行下の香港で北里柴三郎が発見

直後、同じく香港で  
アレクサンドル・エルサン(A. Yersin)も発見

🏆 栄誉は雑菌を分離して発表した  
アレクサンドル・エルサンのものに

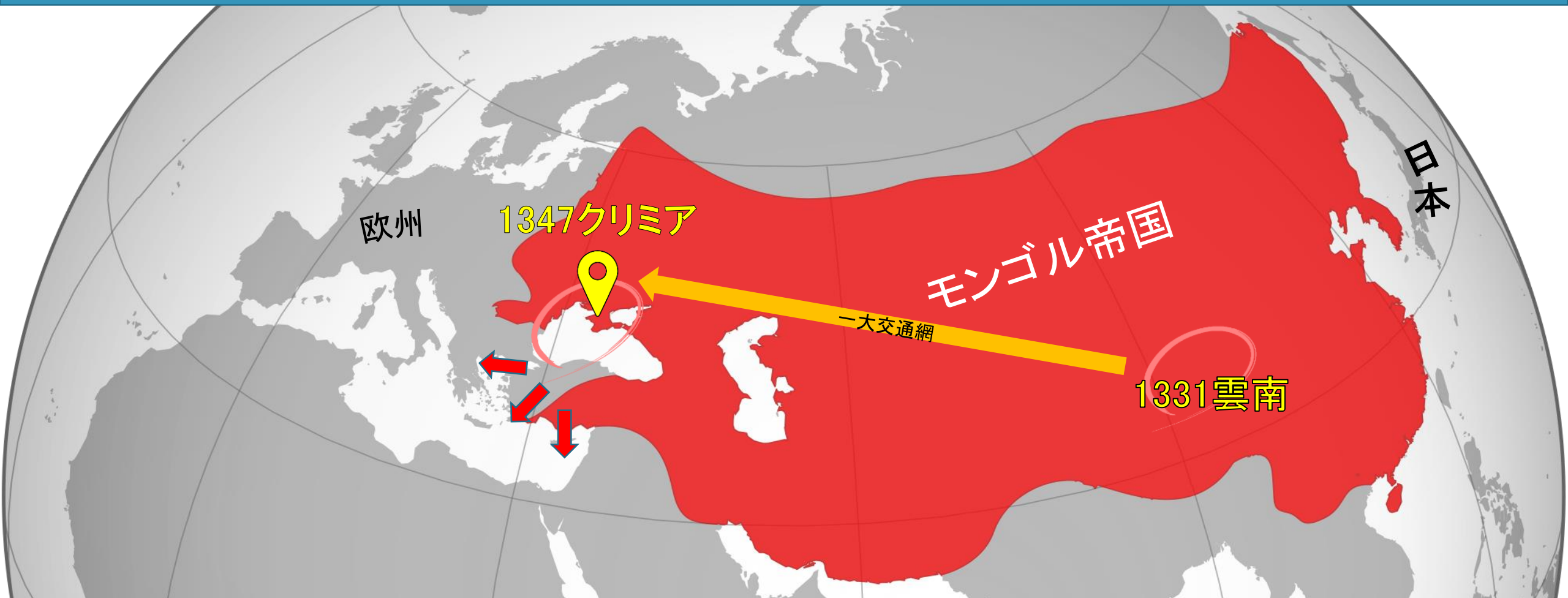


北里柴三郎(1853–1931)  
資料/学校法人北里研究所



アレクサンドル・エルサン  
(Alexandre Yersin, 1863–1945)

# アジア・ユーラシアを横断したペスト

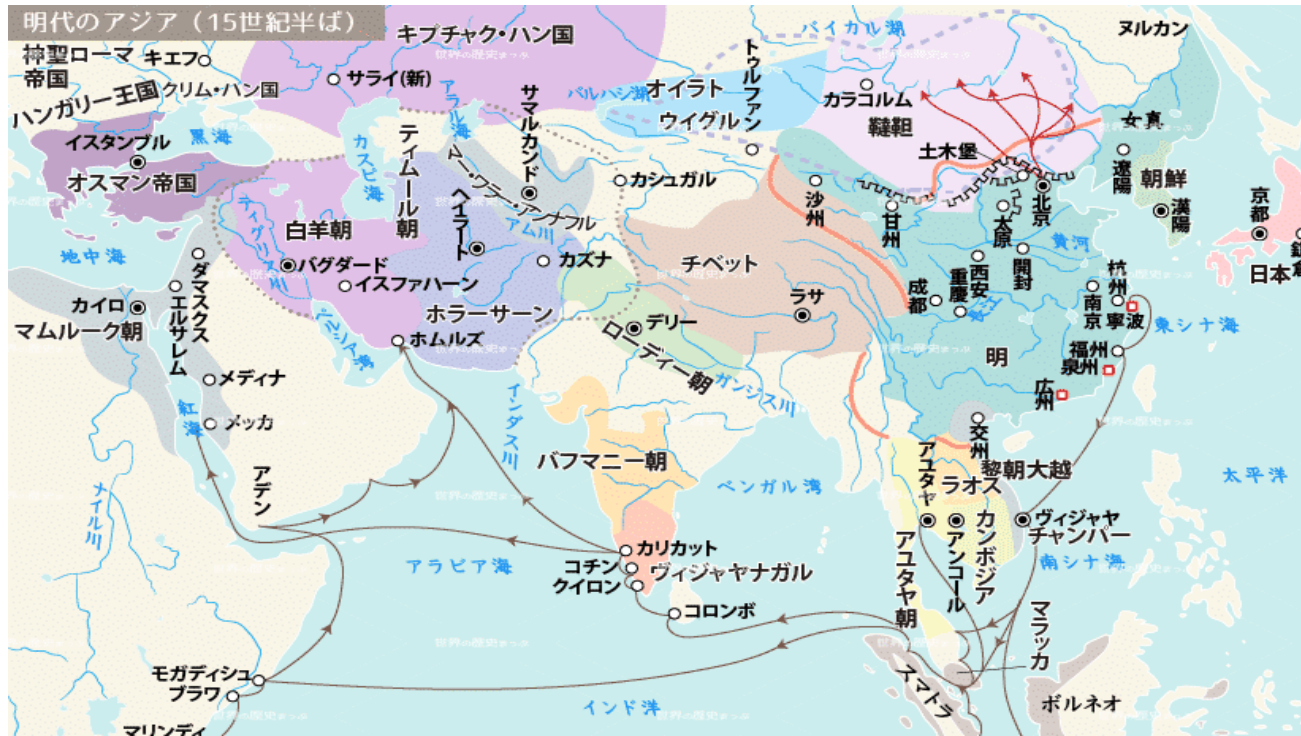


「900～1200年にユーラシア陸路海路にて東西交流が進む。

モンゴル帝国最盛期1279-1350年は長距離移動の隊商や軍隊などが往来する**一大交通網**が完成

1331年中国から1347年クリミア、そこから**船**でヨーロッパと中東のほとんど全ての地域に侵入」

# 世界に拡散したペスト



ドイツのMichael Wolgemut (1434-1519)、1493年作  
「Tanz der Gerippe」(死の舞踏)

13～14世紀…疫病の時代(モンゴルとその後)

15世紀 ……祈っても神は助けず

- 科学による神学の乗り越え(ルネサンス)
- 人口減を補う技術開発(産業革命の萌芽)



# 研究報告

## 2. 欧州のパンデミック



# 「欧州のパンデミック」問題意識

- ①ペストの感染拡大の原因と対策（池田）
- ②ペスト後の人口減少の影響と、社会構造の変化について（三田）
- ③宗教・芸術・ユダヤ人迫害に見るペスト前後の欧州人の心性の変容（小出・北山）

# 第2期パンデミックの感染経緯

1300年頃

- ・中国が発端とされているペスト菌が発生した後中国全土へ蔓延
- ・その後交易ルートを通してヨーロッパへと侵攻



1346年

- ・この時カフファを攻めていたモンゴル軍内でペストが蔓延
- ・撤退する直前にペストに感染したモンゴル軍兵士をカタパルトを使いカフファ城内へ投擲
- ・カフファ城内でペストが蔓延

モンゴル帝国の利用した投石機カタパルト



フランス・ペリゴール地方カステルノー城 (Castelnaud) に復元された平衡錘投石機

カタパルトを使い  
カフファへ投擲

出所: エディンバラ大学所蔵『集史』の一場面



# 第2期パンデミックの感染経緯



出所: Google earthより

出所: Michel Serre (1658-1733) Scène de la peste de 1720 à la Tourette (Marseille)



ペストが蔓延した後の14世紀のヨーロッパ

カッファの住民はペスト菌を媒介させたまま船を渡りコンスタンティノープルに上陸したことでヨーロッパ全域にペストが蔓延することとなった

# ペストの感染経路

## 黒死病の感染経路

出典：The National Interest (2018)



1346 1347 1348 1349 1350 1351 1352 1353

Approximate border between the Principality of Kiev and the Golden Horde - passage prohibited for Christians.



Land trade routes



Maritime trade routes

輸送量の増加  
移動の長距離化

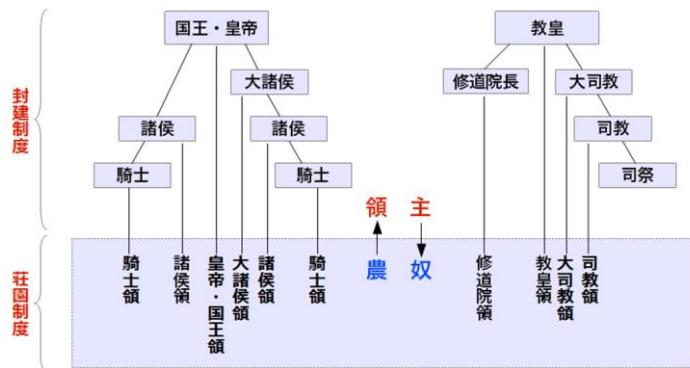
ペストの蔓延

人とともに感  
染源も移動

未熟な感染症  
対策

# ペストによる人口減少と社会への影響

- ・14世紀の欧州は封建社会であった
- ・この封建社会を支えていたのが、「封建制度」と「荘園制度」であり、力関係は領主＞農奴であった



出所: クリエイティブ・コモンズ「表示-継承 (CC BY-SA)」

- ・ペストによる死者数は、様々な数値が記載されているが、下記図を平均すると3,500万人、死亡率は40%程度であり、多くの人が亡くなったことがわかる

|          | 総人口      | 死亡者数     | 死亡率    |
|----------|----------|----------|--------|
| ゴットフリート  | —        | —        | 25～45% |
| ベネディクトヴ  | 約8,000万人 | 約5,000万人 | 62.50% |
| J・C・ラッスル | 約7,350万人 | 約2350万人  | 32%    |

出所: ペストの歴史 宮崎 揚弘 (P.96より作成)

- ・黒死病から生き残った人々へ資産移転(相続)が発生
- ・贅沢を堪能し、消費が増加
- ・物価高・人手不足・高賃金を誘発
- ・農奴を支配していた領主一族が消滅するという事態が発生
- ・また、人口減少に伴い、労働力不足が生じ、農奴の地位は向上



## 封建制度・荘園制度の崩壊

# ペストによる人口減少と社会への影響

- ✓ 14世紀の欧州で発生したペストの死亡率は、各種文献から30%～40%と推測される
- ✓ 人口減少を一因として農奴の地位が向上
- ✓ 封建制度・荘園制度の崩壊

- ✓ 新型コロナウイルスの感染者数は第2波、第3波により大幅に増加しているが、死亡率は低水準
- ✓ 情報社会において、リアルタイムで世界中の情報が手に入ることで、迅速な感染対策が可能となる一方で、正しい情報を取捨選択する力が必要

パンデミックで人々が考える力を失っている時こそ、自分自身で考えることが重要であり、その土台となるのが全体知

# ペスト後の欧州人の心性変容とユダヤ人虐待

## 欧州人の心性変容

12・13世紀

温暖な気候

農地拡大

人口増加  
都市建設

余剰生産  
↓  
交易活性化

1347年～  
ペストの時代

凶作・虫害による飢饉  
大地震・雪害

↓  
**ペスト発生**

↓  
**心性の変容**

↓  
ペスト＝神罰  
神は慈愛⇒畏れの対象  
memento mori(死を想え)

ペストの爆発的な感染力と高い致死率

神による罰《温厚な神から峻厳な神へ》

教会では救いを得ることができない

宗教の私物化、現実逃避

ペスト以後

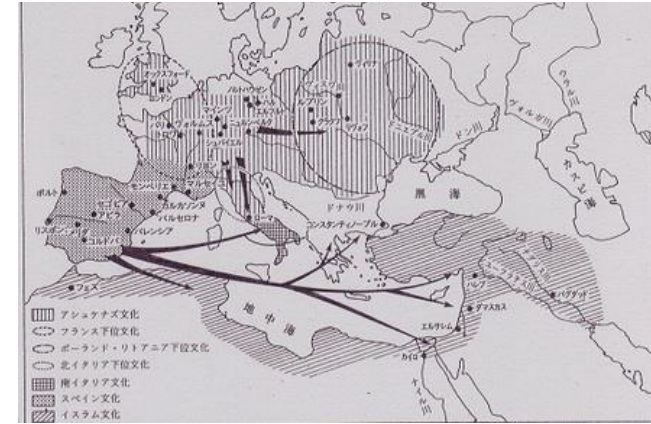
内省

↓  
鞭打ち修行僧  
宗教私物化

↓  
排他

↓  
他者迫害  
(障碍者・ユダヤ人  
異端審問所)

## 14世紀のユダヤ文化圏



出典：黒川知文  
『ユダヤ人迫害史』

## ペスト期のユダヤ人迫害

ゲットーでの集住

神の怒りを鎮めるいけにえ

ユダヤ人迫害

教会・王権が迫害を許容

神を殺した罪人

欧州各地での追放、ルーマニア・ウクライナへの移住

迫害が無実化（金貸しだから殺された）

迫害が許容されたまま後世へ

# 宗教・民族のもたらす分断

ユダヤ人の経済力への嫉妬

ユダヤ教への違和感と  
キリスト殺しへの敵意

民族意識の高揚に伴う  
異人種攻撃

権力掌握・他者への敵意高揚の  
ための政治的利用

民衆の現状への不満に対する  
身代わりの羊

関東大震災にお  
ける朝鮮人虐殺

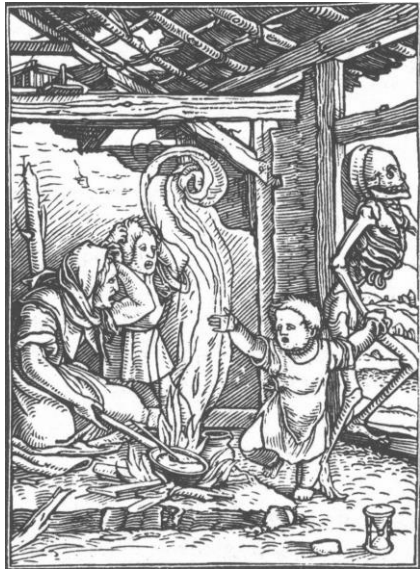
第二次大戦中のアジ  
アでの日本語教育、  
天皇拝礼の強制

アイヌ文化、琉  
球文化の損壊

人は有事にあたり他責により自己安定を図る⇒常に歴史は繰り返されている

有事の時こそ、学んだ歴史から今の自分が置かれた状況を認容し、他者を受容することの大切さ、  
相手も人であるという当たり前のことに想いを馳せることが重要となるであろう

# ペストの芸術への影響



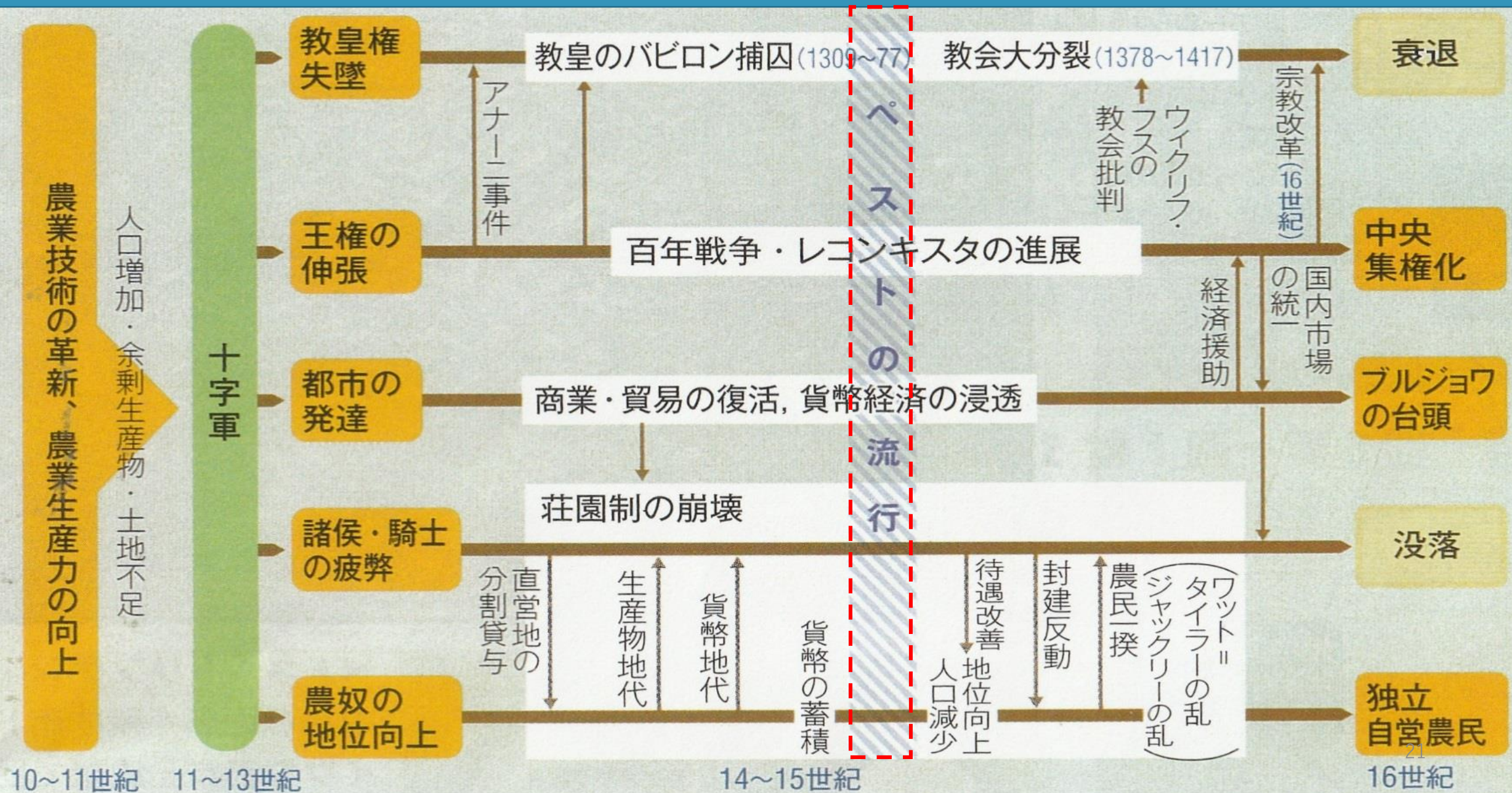
出典：Hans Holbein (1497-1543)、1538年製作の木版画シリーズ「danza de la muerte」



出典：Berner Münster（スイス、ベルン大聖堂）。ステンドグラスは1441年ごろから製作開始）

ペストがその後の芸術（絵画・音楽）に  
影響を与えた  
メメントモリ（死を想え）という思想の広まり

# 中央学院大学 黒川知文教授（欧州史・宗教史） ヒアリング



# ペストによる社会構造上の変化：ヨーロッパの 「疫病統一体」から「革命統一体」へ

農民人口の減少→地位向上・待遇改善→**独立自営農民**→農民一揆

資産移転

都市集中 1357年ジャックリーの乱

1381年ワットタイラーの乱

農民人口の減少→労働力不足→農作業の機械化（水車等）・活版印刷術



貴族の疲弊→封建反動・騎士の略奪→農民一揆で損害→諸侯・騎士の没落  
聖職者の半減→若年聖職者の弊害・ロラード派（ウィクリフ）の浸透

陸路による商取引の衰退→海路による商取引の発展

1374-1435年ハンザ同盟の進展

各都市に公衆衛生局設置 検疫（イタリア40日間） 死亡告知表発行

## ペストによる欧州人の心性の変容

- 反ユダヤ主義の先鋭化→ユダヤ人迫害・追放→ユダヤ人の東欧移住
- キリスト教の死生観・終末観の定着—絵画「死の舞踏」「メメント・モリ」
- 信仰の昂揚・聖年1350年 ローマに巡礼すれば天国 100-120万人
  - ・ マリア崇拝(1348年8月16日涙するマリア像)
  - ・ 聖人崇拝(聖セバスティアヌス等53人の守護聖人)
  - ・ 教会への寄進増加(70慈善施設建設・都市に大聖堂建設)
  - ・ 個人宅の礼拝堂・供養堂(貴族や裕福な市民)
- 教皇権の衰退→信徒による宗教運動の進展……………宗教改革
  - ウィクリフ(1324-1384年)・ロラード派・フス
- 神信仰への疑惑→人間への注目……………×……………ルネサンス
  - 裕福な貴族文化・古典に戻る運動





# 研究報告

## 3. パンデミックの日本への影響



# 「パンデミックの日本への影響」 研究分担

4 世紀～19世紀

■日本の神仏信仰 ■日本の地政学的特性  
■科学の進歩 ■衛生行政の発展

1. 日本の神仏信仰と疫病の関連性(山内)
2. 13世紀から15世紀の日本と感染症(光永)
3. 江戸時代日本がコレラから受けた影響(柳沢)
4. 科学の進歩と日本における感染症(光永)
5. 感染症への日本人の貢献(光永)
6. 地政学的視野から見た日本における感染症(光永)
7. 現代に生きる日本人特有の衛生観念と気質・文化(光永)



# 日本の神仏信仰と感染症

## ～疫病の蔓延とともに高まる神仏信仰～

### ◆日本の神仏信仰発展の裏には疫病の影響があったのではないか

#### 日本人のDNAに備わる「穢れ」と「禊」の文化

- ・日本の神々は和魂(にぎたま)と荒魂(あらたま)とを併せ持ち、怒らせると荒魂神となり、祟りとなる。
- ・疫病は天の神々や地の神々の支配で生ずるもの。
- ・日本では古より病気を神仏の祟りとして、とりわけ天下に大流行する疫病は、天皇の失策によって天地に異変が起こり、発生すると信じていた。
- ・神々を怒らせないように祈禱が行われる
- ・疫病により、数奇な運命をたどる仏教

### ◆546年 仏教伝来と疫病の流行(日本書紀)

- ・朝廷では、疫病・災害・飢餓に際して、維摩会、仁王会、大般若会、最勝会などを設けて読経を行った。
- ・737年の痘瘡大流行の際、聖武天皇は、諸国に釈迦仏像と挟持菩薩の造立を命じ、大般若経を写経させた。  
平安時代まで:痘瘡の際は、大般若経の読経など、幕府が大規模な祈禱を行う  
江戸時代から:庶民、各人が神仏に祈る

### ◆痘瘡神として疫病神をまつる

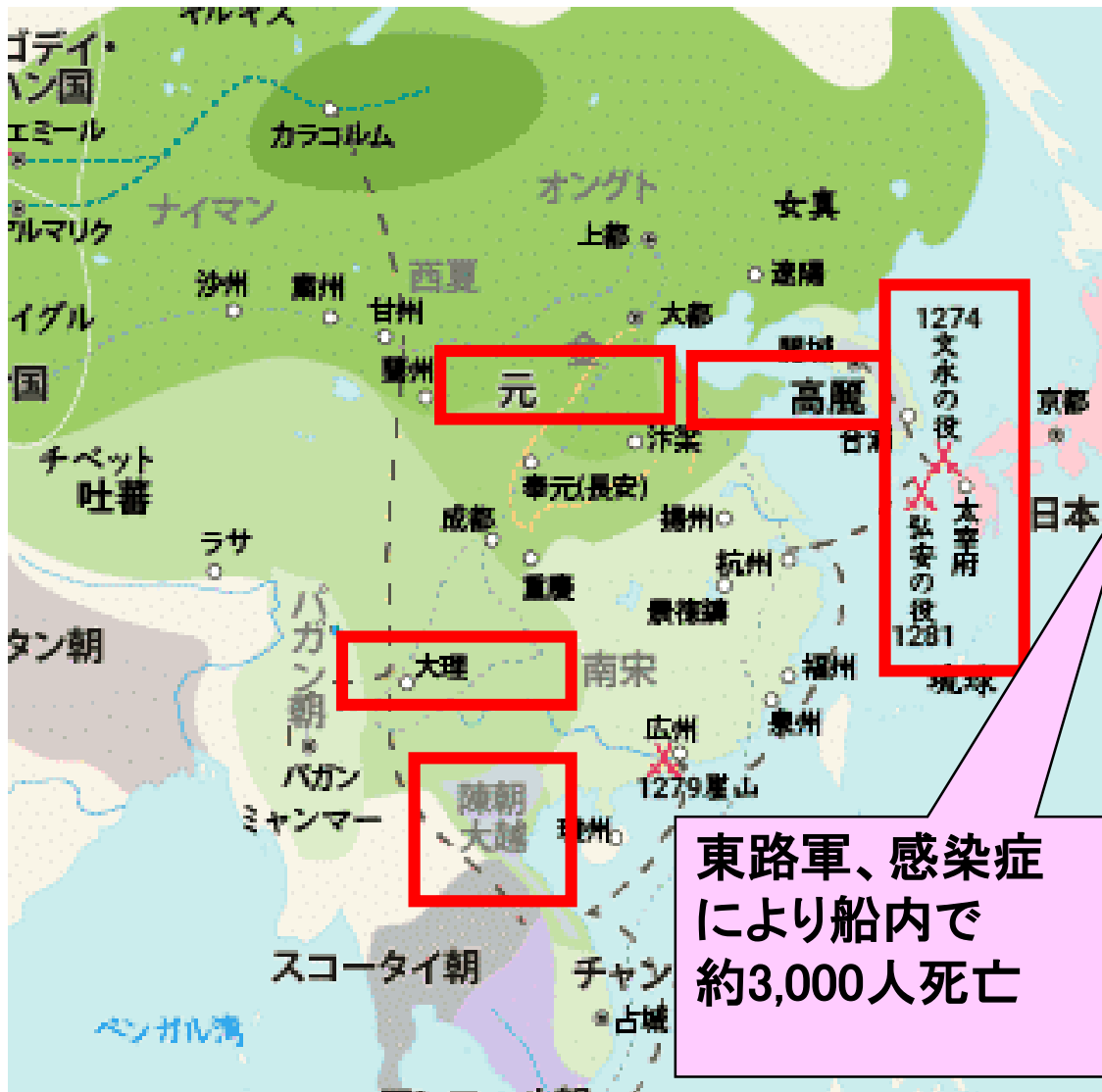
- 痘瘡は新羅からくる病のため、三韓降伏の守り神『住吉大明神』をまつれば病魔に勝つと信じていた。  
江戸では出雲大社の末社鷲明神を痘瘡神としてまつた。

### ◆現代にも続く神仏信仰

- 困った時の神頼み。疫病を予言し疫病退散する妖怪『アマビエ』が流行、グッズ化。

※新羅、高麗、百済の三韓

## モンゴル帝国の雲南侵攻～ペスト拡大期の東アジア(13・14世紀)



出所:世界の歴史まっふ

## 1253年：雲南・ビルマ侵攻

1259年：第4代皇帝モンケ・カーン感染症により死去

1274年：文永の役(元寇)  
1281年：弘安の役(元寇)

1258年  
1285年: ベトナム侵攻  
1288年

## 1331年:ペスト中国で流行

## 1347年:ペスト欧州で流行

ペスト  
きっかけ

日本

ペスト発生せず

日本

マラリア  
疱瘡  
赤班  
咳病

# ペスト 発生

ペスト  
27 拡大

# 14世紀の貿易とペストの伝播（日本と欧州の違い）

日本にペストが伝播しなかった理由：

①貿易品目：日本「銅銭・陶磁器・茶・書画」欧州「絹織物・毛皮」

②貿易量：日元貿易は、管理貿易の中の民間貿易活況



大阪経済法科大学・脇村孝平教授へのヒアリング  
『貿易品目・頻度の影響：実証はされていないが、可能性は高い』

# 16世紀の貿易と「梅毒」の伝播(14世紀ペストと違い日本に流入)



出所: 小学館 日本大百科全書(ニッポニカ)

## 梅毒の感染ルート

1493年～ スペイン・イタリアから  
ヨーロッパに拡大

1498年～ インド⇒インドネシア

1505年～ 広東から中国(明)に拡大

後期倭寇が運んだ梅毒  
漢人・ポルトガル人・日本人(3割)

「中国ルート」と「琉球ルート」から  
1512年～ 日本に拡大: 貿易ルート

17世紀～ 4つの口(琉球・長崎・対馬・蝦夷)  
感染症流入(天然痘・マラリア・麻疹)

# 日本における感染症と「科学発展史」

紀元前

7世紀

14世紀

16世紀

17世紀

19世紀

20世紀

現代

パンデミック

ペスト

梅毒

天然痘

ペスト  
コレラ・結核

スペイン風邪  
インフルエンザ

SARS  
MERS  
COVID-19

病原体

細菌の発見

ウィルスの発見

顕微鏡

顕微鏡発明  
1550年

光学顕微鏡進歩  
17世紀後半～

電子顕微鏡発明・進歩  
1932年～

日本人の貢献

①緒方洪庵



天然痘  
19世紀

②北里柴三郎



ペスト菌発見  
19世紀

③志賀潔



赤痢菌発見  
19世紀

④秦佐八郎



梅毒特效薬開発  
20世紀

出所:

①大阪大学適塾  
記念センター  
②北里大学東洋  
医学総合研究所  
③東京大学  
医科学研究所  
④北里柴三郎  
記念室

# 感染症への日本人の貢献①～天然痘と緒方洪庵～

1796年 英・エドワード・ジェナーの牛痘接種法発見から、遅れること半世紀を経て、日本で牛痘接種が広まる。

岡山(足守藩)

1850年  
緒方洪庵  
「足守除痘館」  
(岡山)設立

大阪

1849年  
緒方洪庵  
「除痘館」設立

江戸

長崎・出島

1849年  
日本で初めての痘苗  
ジャワ島から上陸  
牛痘接種に成功

出所:  
大阪大学適塾記念センター



1849年  
蘭方医学禁止令  
1858年  
蘭方医学海禁  
「お玉が池種痘所」設立  
牛痘接種、関東で開始  
↓  
緒方洪庵、江戸へ  
「西洋医学所」頭取に

1867年  
孝明天皇、天然痘  
にて死去

1946年  
外地引揚  
天然痘3,000人死亡

1955年  
日本における  
天然痘撲滅

1980年  
WHO  
天然痘根絶宣言

2002年  
ブッシュ大統領  
天然痘バイオテロ  
種痘接種60万人

# 感染症への日本人の貢献②～ペスト菌と北里柴三郎～



1894年  
6月6日  
香港にペスト調査派遣  
6月24日  
北里・ペスト菌発見

歴史の絶妙なタイミング

7月 日清戦争開戦

## 【世界への貢献】

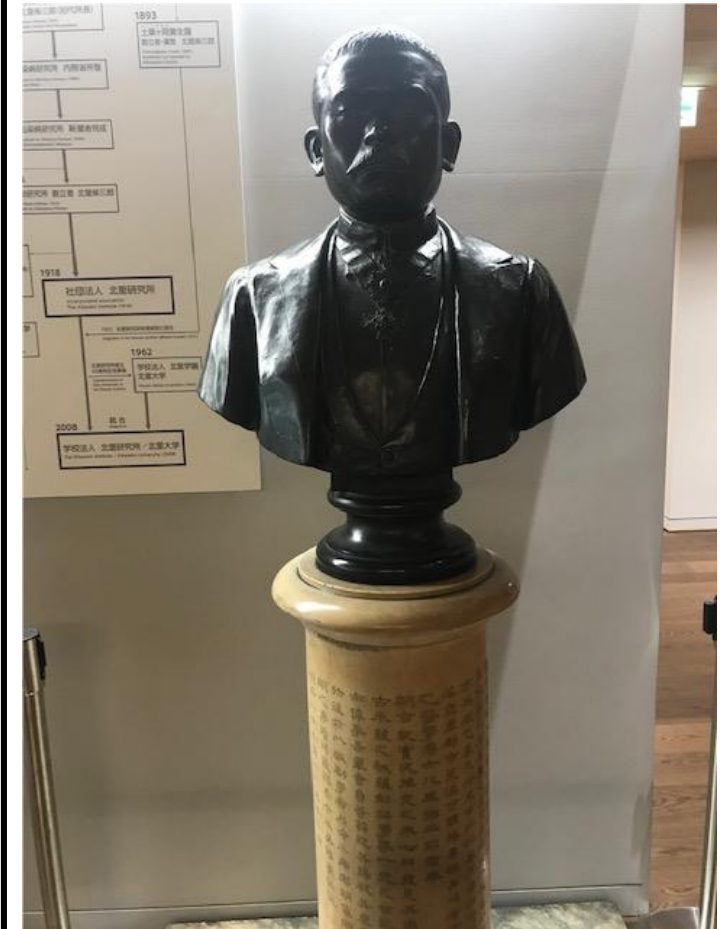
- ・ペスト菌発見により  
ワクチン・治療薬開発
- ・日本では1926年撲滅

## 1897年ペスト予防対策として【伝染病予防法成立】

北里が説いた

- ・上下水道整備
- ・地域・家屋の消毒
- ・感染者の隔離
- ・船・列車の検疫

- ・新型コロナウイルス対策に通じる



北里柴三郎像

出所: 北里大学・白金キャンパス  
筆者撮影

# 感染症への日本人の貢献③～日本の衛生行政と長与専斎～

## 岩倉具視 使節団

- 1871年
- ・欧米視察の最中ドイツの進んだ衛生行政を見て使命感
  - ・遅れている日本衛生行政の確立



出所：  
大村市HP

## 医制制定 初代衛生局長

- 1874年 医制
- ①流行病伝染病予防
  - ②貧民の救済
  - ③土地の清潔
  - ④上下水の引用排除
  - ⑤市街家屋建築方式
  - ⑥薬品染料飲食物の用捨取締り
- 1875年
- ・初代衛生局長就任
  - ・衛生という言葉が長与がつくった

## コレラ対策 伝染病対策

- 1877年・79年
- ・コレラ感染拡大
- 衛生工事の推進  
(神田下水敷設など)
- 「心得書」発布
- ①清潔法
  - ②摂生法
  - ③隔離法
  - ④消毒法

- 現代に繋がる功績
- ・現代の衛生行政
  - ・衛生インフラ
  - ・国民の衛生観念
  - ・感染症対策

日本の公衆衛生の基礎構築 衛生の父

# 地政学的視野から見た日本における感染症～フィールドワークより～

## 19世紀以前



- ①遊牧民の影響を受けない第一地域(日本・西ヨーロッパ)  
⇔影響を受ける第二地域(ユーラシア大陸)
- ②ユーラシアの「疫病の貯水池」と一定の距離

## 19世紀以降

- 開港による感染症流入
- ①近代医療技術の発展
- ②科学技術の発展
- ③公衆衛生の環境整備
- ④国民の衛生意識

ユーラシア大陸からの  
感染症をコントロール



# 現代に生きる日本人特有の衛生観念と気質・文化

## 第3章: パンデミックの日本への影響「4つの論点」

2. 日本の地政学的特性

1. 日本の神仏信仰

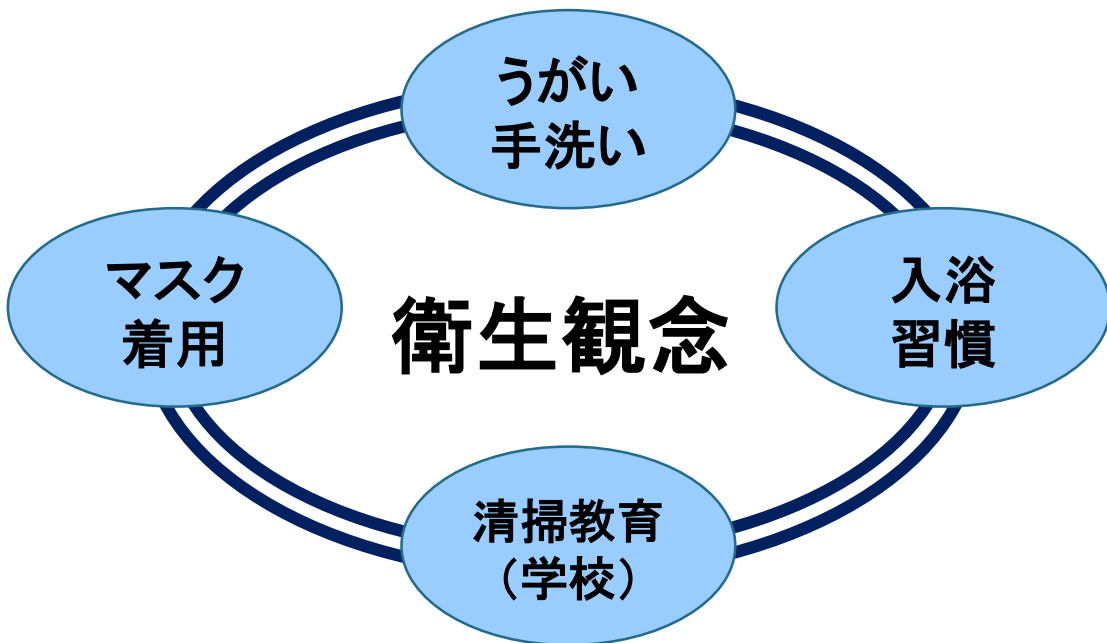
19世紀

3. 科学の進歩

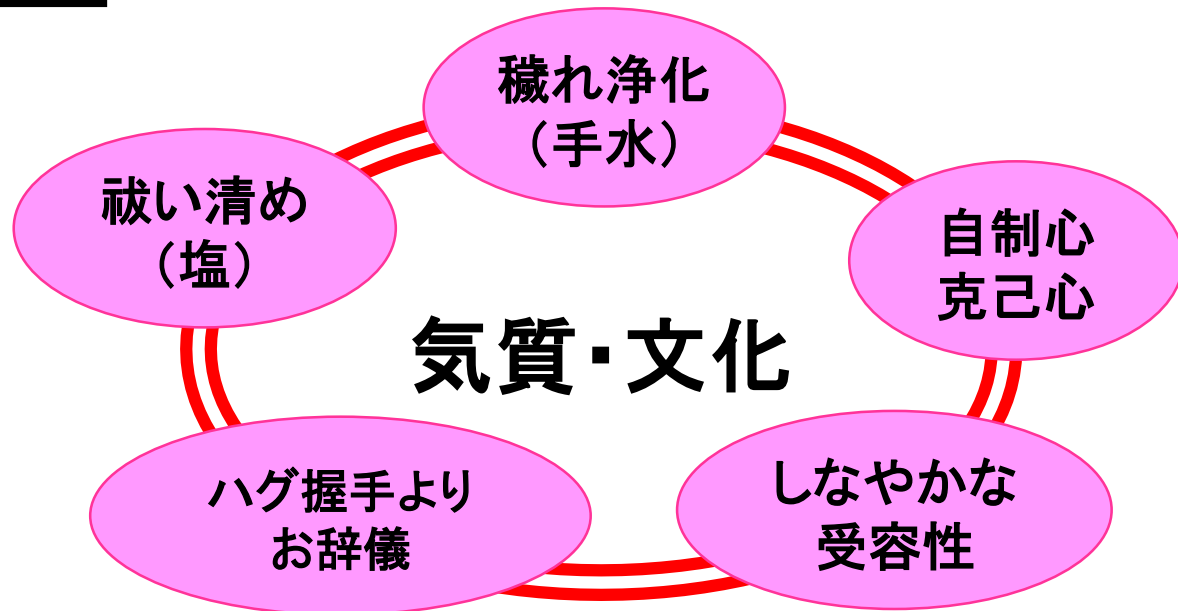
4. 衛生行政の発展

## 支える土台: 日本人の「衛生観念」「気質・文化」

### 衛生観念



### 気質・文化



## はじめに

---

- ▶ 脇村孝平「疫病のグローバル・ヒストリー：疫病史と交易史の接点」  
（『地域研究』Vol.7, No.2, 2006年2月）での問題設定
- ▶ 「本稿の目的は、疫病史と交易史の接点を探ろうとするところにある。具体的には、世界史における「帝国」の展開過程や世界のグローバル化の進行といった事態と大規模な疫病の発生との関連を問うことになる」と書いた。
- ▶ 本日の問題設定
  - ▶ 主に、「**疫病のグローバル・ヒストリー**」を、**地政学的な視野**から考えることにしたい。  
その際、思考のモデルとして、梅棹忠夫氏「文明の生態史観」を採ることにする。
    - ▶ **ユーラシア大陸における遊牧民の影響を受ける地域**（第二地域）
    - ▶ **その影響を受けない地域**（第一地域）

## おわりに

- ▶ 14世紀および15世紀に、中央ユーラシアでは、ペストがもたらした人的被害は、社会・経済に致命的な打撃を与えた。これが、**その後の世界史の帰趨に大きな影響を与えた。**
- ▶ **西ヨーロッパの場合**、ペストから甚大な影響を受けつつも、その後、特に**16世紀以降、基本的には回復過程**に入った。ただし、今日の私の話では、その点を全く述べることはできなかった。他日を期したい。
- ▶ 他方で、**日本は、ユーラシア大陸の「疾病の貯水池 (disease pool)」から「適度な距離」を保ちうる位置**にあったと言えるのではないか。



# 研究報告

## 4. 現代的意義とポストコロナ



# イデオロギーとウイルスの親和性

- 自由
- 個人
- 人権

資本主義・自由主義的

☑ 情報統制

☑ 管理

共産主義・社会主義的

ウイルスに国境はなく、またイデオロギーにも左右されない。

その上で…

確固たる歴史認識と、科学的エビデンスに基づいた上で

しなやかな受容性を持って行動することが必要なのではないか。

日本的な行動様式や考え方について再考する機会へつながる。



# ヒアリング報告まとめ

## 脇村孝平教授・黒川知文教授

2020  
多摩大学・イ  
「アジアダイナ

## 「疫病のグローバル・ヒストリー」試論： 地政学的な視野に立って

脇村孝平（大阪経済法科大学）

一時停止 (k)



2020/8/1

「疫病のグローバル・ヒストリー」試論：  
地政学的な視野に立って

脇村孝平（大阪経済法科大学）

モンゴル帝国とペスト



黒死病：ヨーロッパの経験



疫病史における日本の立ち位置

- 日本が、媒介生物の介在する感染症からは免れることができたのは、やはり海が存在が大きいと言わざるをえない。
- ペスト、癘疹チフスは、日本では流行しなかった。
- ただし、人から人へと伝播するウイルスによる感染症は、早い時期に大陸から伝播して、疫病となった事例を挙げることができる。
- 8世紀における天然痘流行の事例：735年(天平7年)から翌々年まで。
  - 人口の三分の一が亡くなったという説がある。
  - [N.Hays, Epidemics and Pandemics: Their Impacts on Human History, Santa Barbara: ABC-CLIO, 2005, p. 31.]

構成

- はじめに
- モンゴル帝国とペスト
- 黒死病：ヨーロッパの経験
- 疫病史における日本の立ち位置
- おわりに

私の専攻は社会経済史ですので、文化史、宗教史、精神史に関わるご質問には、基本的にお答えする知識も資格もありませんので、その点はご容赦願います。

モンゴル帝国とペスト

- マクニール説の評価
  - 言うまでもなく、以上は、すべてウィリアム・マクニール『疫病と世界史』(上・下、中公文庫、2007年、なお、原著は、1976年に出版されている)に依拠している。
  - ただし、現在の時点から考えてみると、このマクニール説において、基本的な論点は、すべて推測により成り立っており、それを実証する歴史的な資料をほとんど欠いていることも確かである。
  - 例えば、歴史家によっては、このウィリアム説をほとんど無視する例もみられる。
    - [N. Hays, Epidemics and Pandemics: Their Impacts on Human History, Santa Barbara: ABC-CLIO, 2005.]
  - ただし、客然性という点では、この説は依然として魅力的である。したがって、本日のこの部分の話は、依然としてマクニール説に依拠している。

黒死病：ヨーロッパの経験

- 「ブレ」の問題
  - 西ヨーロッパ(ドイツ、フランス、イギリスなど)における、12世紀から14世紀にかけての人口増加
    - 「10世紀から11世紀の変わり目頃にはドイツ本土の人口増加が、なお緩慢であったが、12世紀にはその速度を著しく早め、13世紀に頂点に達し、そしておそらく14世紀半ば頃には1347/50年の黒死病をもって終りを告げたという印象であった」
    - W.アーベル(中央経済院「産業形態と貿易圏—中世中期以来の中欧農業及び人口拡張経済の歴史」米原社、1972年、42ページ)
  - 穀物価格の長期的な上昇の趨勢
    - 14世紀初頭の飢饉
      - マルサス説状況？
  - 交易の発展
    - ペストの伝播に影響
  - ただし、ペストの流行は外生的な問題

疫病史における日本の立ち位置

- 天然痘は、この後、13世紀頃まで、度々、**疫癘的(epidemic)**に発生し、人口の停滞の有力な要因になったという。この時期に天然痘が疫病的に発生した理由は、農業の発展と人口の増加によって、感染が拡大する素地が生じていたからだという。しかしながら、13世紀に天然痘は**流行的(epidemic)**となり、その後、日本の人口は増加の趨勢に入った。
  - 寛政室人口で見える日本史：徳文時代から近末社会まで [JPH中、2007年、60-61ページ]
  - [N. Hays, Epidemics and Pandemics: Their Impacts on Human History, Santa Barbara: ABC-CLIO, 2005, p. 31.]
- 疫病史における日本の立ち位置
  - 日本は、ユーラシア大陸の「疫病の貯水池(disease pool)」から、古代以来、影響を受けつつも一定の距離を保っていたことが大きい。
  - すなわち、「疫病の貯水池(disease pool)」から隔離していたアメリカ大陸が、15世紀末以降に受けたような被害を免れつつ、他方でそれ以前に、14世紀半ばから15世紀にかけて、ユーラシア大陸の多くの地域で人口減少を招いたペストの影響も免れたからである。

はじめに

- 拙論「疫病のグローバル・ヒストリー：疫病史と交易史の接点」(『地域研究』Vol.7, No.2, 2006年2月)での問題設定
  - 「本稿の目的は、疫病史と交易史の接点を探ろうとすることにある。具体的には、世界史における「帝国」の展開過程や世界のグローバル化の進行といった事象と大規模な疫病の発生との関連を問うことになる」と書いた。
- 本日の問題設定
  - 主に、「疫病のグローバル・ヒストリー」を、**地政学的な視野**から考えることにしたい。その際、思考のモデルとして、梅津忠夫氏「文明の生態史観」を探ることにする。
    - ユーラシア大陸における遊牧民の影響を受ける地域(第二地域)
    - その影響を受けない地域(第一地域)

モンゴル帝国とペスト

- 「ボスト」の問題
  - 結論的に言って、15世紀に、中央ユーラシアの草原地帯では、ペストの流行によって人口減少が起こり、交通の衰退、ひいては帝国そのものの崩壊が齎まったことは、間違いない。その意味で、モンゴル帝国の衰退の一つの重要な要因であったと考えるのではないか。
  - 同じ(同時期に、イスラム世界(中東地域)においても、ペストにより、商業ネットワークのハブになる都市の人口減少と衰退が起った可能性が強い。例えば、シジファ、シリア。
  - 中国では、13世紀初頭から14世紀末にかけて人口が半減した(1200年の1億2300万人→1393年の6500万人)というが、マクニールは、この人口減少をペストの流行によるものと推測している(マクニール、下、28ページ)。
  - これらの論点は、ジャネット・L・アールゴッドによっても、ほぼ踏襲されている。
    - ジャネット・L・アールゴッド(後藤次高他訳)『ヨーロッパの歴史』上・下、岩波書店、2001年。
  - 中央ユーラシアでは、ペストによる人口減少というダメージが大きかった。

黒死病：ヨーロッパの経験

- 「ボスト」の問題
  - 西ヨーロッパに関しては、15世紀を農業不況の時代と捉える説(W・アーベル)が存在する。
  - 穀物価格の低落
    - 「[14～15]世紀の変わり目を過ぎても、より顕著の変動に中断されながら、穀物価格の下落が続いた。25年平均当たりより短期の現象については素直にみずからしか知りえないが、それによれば中欧の穀物価格は15世紀後半に最低の水準に達したのである」(アーベル、74ページ)。
  - 農業の衰退、地代の低下、農地の荒廃。
  - その原因として、15世紀における人口減少が指摘される。
  - 継続的なペストの流行も一因か？
  - いわゆる「封建制」の衰退？

疫病史における日本の立ち位置

- 19世紀のコレラに話を移すと、1822年の流行を除くと、その後10回にもわたる日本におけるコレラの流行は、やはり開港以後のことであり、多くの場合、その侵入経路は、開港場であった。ちなみに、多くの場合、その直接のルートは、中国の沿海地域からのものであった可能性が高い。
- しかしながら、日本は、明治以降、ヨーロッパ由来の近代的な医療・公衆衛生の手段を武器にしつつ、ユーラシア大陸からの感染症の影響をコントロールできた。

モンゴル帝国とペスト

- 「ブレ」の問題
  - 上記拙論で書いたこと「モンゴル帝国の成立がユーラシア大陸の中央部を貫く交易ルートにある種の安全保障を提供することによって、東西交易が活発化し、ひいては中央アジアからヨーロッパへとペストを伝播したと考えられている」
  - 以上に加えて、14世紀のペストのパンデミックは、その起源が、中央アジアの草原地帯(モンゴル軍が、ヒマラヤ山麓から中央アジアの草原地帯に持ち込んだ)にあること、また、ほぼ同時期に中国でペストの大流行があったことなどを書いた。
  - しかしながら、最近の研究によると、東西交易の活発化は、モンゴル帝国が成立する以前からかなり活発化していたことが指摘されている。
  - 「東アジア・東南アジアの出土陶磁のデータを見る限り、『モンゴルの世紀』に先立つ「長い一二期」における遠距離交易の発展傾向を想定できる」
  - 尚正明「モンゴル帝国とユーラシア広域ネットワーク」秋田県編『グローバル化の世界史』日本学芸会、2019年。

黒死病：ヨーロッパの経験

- 黒死病に関する研究
  - 14世紀のペストのパンデミックに関して、ヨーロッパ地域を対象とする研究が圧倒的に充実している。最初の流行に関する語彙(伝播)の経路や人口減少の実態に關しても、かなり詳しいことが明らかになっている。
  - 伝播経路に関しては、次のスライドの地図を参照。交易ルートとの関連。この点は、前掲拙論でも簡単に触れた。
  - 人口への影響
    - 「経済学者のハバロ・ロマニヤによる最新の推定によれば、ヨーロッパの人口は1300年の9400万人から、1400年には8800万人に落ち込んだ。減少率は25%を超える」(ウォルター・シャイデル「スタンフォード大学教授」『黒死病』流行後に欧州の労働者が経験したこと—食料、資金、宗教、慈善活動はどう変わったか(東洋経済Online <https://toyokeizai.com/article/1403-1450>)

黒死病：ヨーロッパの経験

- 「ボスト」の問題(続き)
  - しかしながら、アーベルは、労働者の実質賃金は上昇した点も指摘している。
  - 「恐らく(実質的)賃金上昇は、すでに世紀半ばの黒死病以前に始まったのであろうが、その後も激しく上昇しつづけたのである。労働者不足と賃金上昇に対抗するため、多くの領邦や国々では最高賃金を規定する賃金条例が発布され、その公定価格には労働者も雇主も拘束されるべきであった」(アーベル、77ページ)。
  - さらに、もともと楽観的な見方もある存在。
    - 「黒死病によって人口は激減したものの、物理的なインフラは壊れずに残った。生産性が向上したおかげで、人口の減少ほど生産量は減らなかったため、1人当たりの平均的な生産量と所得は上昇した」。
    - 「ペストの犠牲者からの遺物や、適度相対した生存者からの寄贈に支えられ、宗教的、教育的、慈善的寄付が急増した。おかげで、人手不足にもかかわらず建設工事が推進され、個人は非熟練都市労働者ととらわが世の奉を識取した」。
    - ウォルター・シャイデル(スタンフォード大学教授)「黒死病」流行後に欧州の労働者が経験したこと—食料、資金、宗教、慈善活動はどう変わったか(東洋経済Online <https://toyokeizai.com/article/1403-1450>)

おわりに

- 14世紀および15世紀に、中央ユーラシアでは、ペストがもたらした人的被害は、社会・経済に致命的な打撃を与えた。これが、その後の世界史の帰趨に大きな影響を与えた。
- 西ヨーロッパの場合、ペストから甚大な影響を受けつつも、その後、特に16世紀以降、基本的には回復過程に入った。ただし、今日の私の話では、その点を全く述べることはできなかった。他日を期したい。
- 他方で、日本は、ユーラシア大陸の「疫病の貯水池(disease pool)」から「適度な距離」を保ちうる位置にあったと言えるのではないが。

# ヒアリングの様子

PowerPoint presentation titled "欧州のパンデミック - 黒死病と宗教意識の変化 -" (The European Pandemic - The Black Death and the Change in Religious Consciousness -) by 黒川知文 (Tomohiro Kurokawa).

The presentation is displayed on a screen, showing the title slide and a list of five slides in the left sidebar. The title slide features the text "欧州のパンデミック" (The European Pandemic) and "黒死病と宗教意識の変化" (The Black Death and the Change in Religious Consciousness), along with the author's name "黒川知文". Below the text is a historical illustration of a person in a cart being pulled by a horse, likely representing the Black Death.

The sidebar shows the following slides:

1. 欧州のパンデミック (The European Pandemic)
2. 黒死病 (The Black Death)
3. 宗教意識の変化 (The Change in Religious Consciousness)
4. 宗教意識の変化 (The Change in Religious Consciousness)
5. 宗教意識の変化 (The Change in Religious Consciousness)

The status bar at the bottom indicates "スライド 1/37" (Slide 1/37) and "日本語" (Japanese).



# ヒアリング資料 黒川教授①

## 欧州のパンデミック

—黒死病と宗教意識の変化—  
黒川知文



### 参考文献

- ・阿波羅還也に於ける中世ヨーロッパ日本エディタースクール出版部 1987年
- ・池上俊作『ヨーロッパ中世の宗教運動』名古屋大学出版会 2007年
- ・「Jermania」・「Kantaria」・「Jermania」夜祭の社会と貴族士社 2020年
- ・木村靖二等監修『詳説世界史要綱』山川出版社 2020年
- ・黒川矩文『ユダヤ人の歴史と思想』ベリン 2019年
- ・ダニエル・デフォー『ペストの記憶』研究社 2017年
- ・フレデリック・アウデルシュン『ヨーロッパの歴史』駿河台教育図書 東京書籍 2002年
- ・宮崎陽弘『ペストの歴史』山川出版社 2015年
- ・村上陽一郎『ペスト大流行』岩波新書 1983年
- ・Encyclopaedia Judaica vols. 16 Jerusalem 1971
- ・中世の黒死病ベストJCS History Channel 2005年

ベストの起票

「ペリシテ人領主へのわざわいは、5つの金の國物、すなわち5つの金のねずみ」  
第一サムエル 5章4節 8C11世紀

ベストの世界的流行

- 中世初期 541~767年  
ウラング・ケニア・アラビア半島→地中海→ヨーロッパ・イギリス  
「ユスティニアヌス大帝の大成」  
東西ローマ帝国の継承 修道院運動(ベネディクト修道院)
- 2 中世中期～近代1340~1840年代  
モンゴル→中央アジア→カフカ→シベリア→全ヨーロッパ→ロシア
- 3 近代～現代1860年代～1950年代  
中国雲南省→インド・ボンベイ(2000万人死亡)→アフリカ・オーストラリア・アメリカ 鉄道をとりまく東南アジア

## ペスト菌について

- [illegible]



黑死病年表



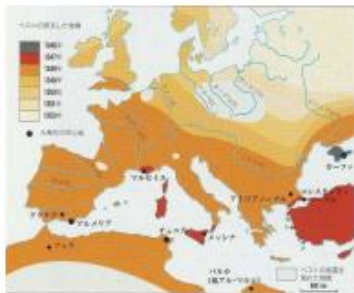
## ベストの予防と治療法

学習方法として効果的なものは少ない

[illegible]

●**ドレッシング**(1) **油類** ローマ食品特産品 ベスト食品(原産)の抽出  
肉類、魚類、スープは香辛料で味付けする。調味料は有香・無香・少量の香辛料を  
含む。調味料は有香・無香・少量の香辛料を。天ぷらは少量の油・タネに少量の香辛料を  
含む。オリーブ油は有香・無香・少量の香辛料を。天ぷらは少量の油・タネに少量の香辛料を

現代 : 遠隔制御のストロブマイレシンの指向注射 試金検査法と  
90%注量から



## ペストによる社会構造上の変化

農民人口の減少→地位向上・待遇改善→**独立自営農民**→農民一揆  
 1357年ジャックリーの乱  
 1381年ワットタイラーの乱  
 農民人口の減少→労働力不足→農作業の機械化(水車等)・活版印刷術

貴族の疲弊→封建反動・騎士の略奪→農民一揆で損害→諸侯・騎士の没落

陸路による商取引の衰退→海路による商取引の発展  
1374-1435年ハンザ同盟の進展

「物乞い」  
ジャン・フロワサル『フランス年代記』  
パリ国立図書館

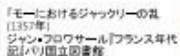
ベストで生き延びた者は、教会の前で  
物乞いをして生きつないだ



表1 プロヴァンス地方における世帯の減少率

| 種 名     | 1342年 | 1349年 | 1360年 | 1361年 | 1362年 | 1364年 | 1366年 | 1368年 | %    |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| エタス     | 1467  |       |       |       |       |       |       | 810   | 44.8 |
| ダハース    | 1360  |       | 738   |       |       |       |       |       | 45.8 |
| アプト     | 925   |       |       |       |       |       | 444   |       | 52.0 |
| リエ      | 680   |       |       |       |       | 213   |       |       | 68.7 |
| ヴェランソル  | 660   |       |       |       |       | 226   |       |       | 65.8 |
| ムスティエ   | 622   |       |       |       |       | 204   |       |       | 67.2 |
| フォルカルグエ | 600   |       | 281   |       |       |       |       |       | 53.2 |
| ディニュ    | 444   |       |       |       |       |       | 260   |       | 41.3 |
| リアン     | 300   | 213   |       |       |       |       |       |       | 29.0 |

Benedictow, O. J. *The Black Death 1346-1353, The Complete History*. Woodbridge, 2004, p. 311.



重税に苦しむ農民は貴族に対して  
反乱を起こした  
農民は城の主人をすべて虐殺した



ハンザ同盟加盟都市(1374-1435年)



中世末期の通商図

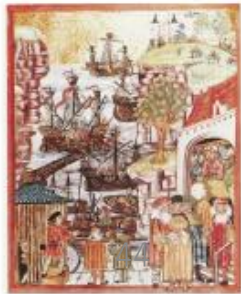
陸路よりも海路による商取引が優勢になった



「ハンザの商港」  
細密画(15世紀) ハンブルク国立図書館

豪華な衣装を着た貿易商人たちの商

同様の光景は14、15世紀のヨーロッパ  
あらゆる港で見られた



# ヒアリング資料 黒川教授②

1349年トルネのベスト

ジル・リ・エュイジス『トルネのベスト年代記』  
ブリュッセル国立図書館



鞭打ち苦行団

1310年ヒエモンテの苦行団



## ユダヤ人と黒死病

医学が発達していなかった14世紀当時、ペストの原因として「大気汚染説」、「死神説」、「魔女説」、「昆虫やネズミ説」などともに唱えられたのが「ユダヤ人説」であった。「ユダヤ人が井戸に毒を流したから死んだ」などと言われた。背景にあったのは、ユダヤ人にペストの犠牲者が少なかったこと、それは、中世後期のユダヤ人は裕福だったからペストから避難でき、またユダヤ教の戒律が健康を保つ一因となったからであった。

ユダヤ教戒律

- 血を肉といっしょに食べてはならない
- 反動しない動物(豚)は食べてはならない
- 一日の終わりに身を清める「両手のあらい」
- 安息日や礼拝の前に身を清める「全身のあらい」

註文『ユダヤ人の歴史と思想』131—137頁

ユダヤ人迫害  
『ニュルンベルク年代記』  
[1493年]



## 黒死病の原因説

- 1 大気汚染説 多数説
- 2 悪い食べ物
- 3 血液が発酵期にありペストと結びつく
- 4 不規則な季節の変化
- 5 気象異常 フェーン現象
- 6 占星術的病因論 木星と火星の「合」により体のバランスが壊れた
- 7 患者の尿から発した毒気
- 8 キリスト教徒の敵(ユダヤ人)が空気、水、飲食物に毒を投入
- 9 死神説 魔女説
- 10 ネズミ説
- 11 人間の罪に対する神の罰 伝統説

## 鞭打ち苦行団 (Flagellant)

「大地震があり、方々に疫病やききんが起り、恐ろしいことや天からのすざましい前兆が現われます」終末預言

ルカ福音書21章11節

13世紀イタリアにおいて、世界終末の接近を警告し、道徳的退廃を非難して鞭打ち苦行を行ったものが、最初の集団的な事例である。先導するのは十字架と松明を掲げた一人のドミニコ会士の修道士。上半身は裸体になり、顔はヴェールで隠し、足首まで届く長いスカートのこきものを身にまとい、血を流すまで露出された肌を自分で鞭で打った。告白の祈りを声高に唱え、教会を見つめるや必ず祭壇の前にひれ伏した。この運動は、次第に半封建体制、反教会運動という政治的な方向へ組織化される傾向を帯びようになり、教会は警戒を強め、教皇は1261年、行進の禁止を呼びかけ、この熱狂的な運動は終息。それが、黒死病の勃発とともにふたたび激しい活力を取り戻した。

ユダヤ人は封建制度から除外されて、土地所有が許されず、森田司の身分であった商人にならざるをえなかった。商人として、諸侯と王に税金を払い保護されていたがユダヤ人の地位は、中世後期に商業経済の導入によりユダヤ人は「予読せぬ」結果として富弱階級になった。



## 黒死病とユダヤ人追放令

フランスコルとドミニコ派説教師による民衆への反ユダヤ宣伝活動黒死病の原因はユダヤ人だとして虐殺「ユダヤ人が井戸に毒を流した」「虚偽と悪魔にだまされた特定のキリスト教徒がこの悪疫の原因をユダヤ人が毒を流したことにしている」1349年9月21日

1420年代各都市でユダヤ人追放令  
オーストリア大公アルブレヒト2世と  
ポーランド王カジミエシ3世がユダヤ人  
保護に難し入国を歓迎

ユダヤ人の東欧への移住



香料を入れて、ペスト患者の嫌悪しを避ける  
仮面をした医者



## ペスト期における鞭打ち苦行の内容

- 鞭打ちの対象: 盗み 姦通 男色の罪
- 展開地: ドイツ南部→全ドイツ→フランドル・オランダ・フランス→東欧
- 背景: アヴィニオン教皇コハヌス22世とドイツ皇帝ルードヴィヒとの確執  
教皇による南ドイツの聖務停止と破門聖職者の聖職売買と結婚の横行  
「1348年には、教会は真に軽蔑すべきありさまになり果てていた」池上民閑信仰: ペストは罪深い人間に対する怒れる神の罰である
- 鞭打ちの様式: 短期滞在と上演の許可・二人並び歌い鞭打ち・十字架型になり地面に臥す・観衆からお金を集める・「天上書状」朗読・説教(悔い改め)・歌い聖堂に入る・十字架刑に三度倒れる・3日半の旅行・50—450人の男性集団・貴族や庶民(農民と市民)も貧者も参加
- 教皇クレメンスの断罪の教勅(1349年10月20日) 仏王も禁止→終息
- 「天上書状」: キリストの手紙 悔い改めて神に従え 教会批判はない

## 黒死病に対する一般的な応答

- 1 節制を尊び、過度にわたらないことが最上策と考えて実行
- 2 欲望の赴くままに解放して陽気に暮らす
- 3 中道を行く 香りのよい花をたずさえて、嘆ぐ
- 4 逃げるにまさった上策はない 富裕階級

村上

鞭打ち苦行団1348年



エール・シュヴァイツァー『シュトラスブルクの虐殺 1349年』  
シュトラスブルクのユダヤ人が井戸に毒を入れたとして糾弾  
キリスト教に改宗しないユダヤ人2000人が焼き殺された



「死の舞踏」  
中世末期  
英国図書館

ペストが人々に与えた衝撃の大きさを物語



「死の舞踏」  
バーゼル  
ドミニコ教会

ローマ教皇でも死を  
免れることは出来ないことを描いている  
15世紀に津波に多くの  
地域で描かれた

阿部



天国と地獄図

キリスト教の死生観が民衆の間に  
定着する



## ペストによる欧州人の心性の変容

- 反ユダヤ主義の先鋭化→ユダヤ人迫害・追放→ユダヤ人の東欧移住
- キリスト教の死生観の定着—「死の舞踏」「メメント・モリ」終末信仰
- 教皇権の衰退→信徒による宗教運動の進展……………宗教改革
- 神への信仰の弱小化→人間への注目……………ルネサンス  
個人主義

# 研究計画【年間スケジュール】

春

| 回  | 月 | 日     | 議 題                         | 文献調査                                       | フィールドワーク | 備 考                                             |
|----|---|-------|-----------------------------|--------------------------------------------|----------|-------------------------------------------------|
| 1  | 5 | 16    | 初回学長講話<br>自己紹介<br>今年度テーマ方向性 |                                            |          |                                                 |
| 2  |   | 23    | 分担発表                        | 次回ベース文献疑問など報告                              |          | 年間スケジュール確定<br>Google driveシェア<br>Facebookグループ作成 |
| 3  |   | 30    | 分担発表                        | 次回ベース文献疑問など報告                              |          | アジア班メンバー確定                                      |
| 4  | 6 | 6     | 分担発表                        | 次回ベース文献疑問など報告                              |          |                                                 |
| 5  |   | 13    | 分担発表<br>研究計画発表PPT確認         | 文献集計・目次                                    |          |                                                 |
| 6  |   | 20    | 分担発表<br>研究計画発表PPT確認         | 文献集計・目次                                    |          |                                                 |
| 7  |   | 27    | 分担発表<br>研究計画発表PPT確認         | 文献集計・目次                                    | FW検討(仮)  |                                                 |
| 8  | 7 | 4     | ◆研究計画中間発表                   | 研究テーマ、目的、問題意識、目次、文献、フィールドワーク               |          |                                                 |
| 9  |   | 11    | ◆研究計画中間発表                   | 研究テーマ、目的、問題意識、目次、文献、フィールドワーク               |          |                                                 |
| 10 |   | 18    | 研究計画発表反省<br>中間発表に向けた計画      |                                            |          |                                                 |
| 11 |   | 25    | 分担発表                        | 中間発表に向けた討議                                 |          |                                                 |
| 12 | 8 | 1     | フィールドワーク                    | 大阪経済大学 脇村先生                                |          |                                                 |
|    |   | 8     | 休講                          |                                            |          |                                                 |
|    |   | 15    | フィールドワーク                    | 中央学院大学 黒川先生                                |          |                                                 |
|    |   | 27/28 | ◆夏季合宿(予定)<br>箱根水明荘          | 発表者(役割分担): 1.研究概要、2.目次、3.内容、4.参考文献・研究計画・FW |          |                                                 |

# 秋

|    |    |    |                               |                           |  |             |
|----|----|----|-------------------------------|---------------------------|--|-------------|
| 14 | 10 | 3  | 分担発表                          | 各執筆原稿の発表(状況報告)            |  |             |
| 15 |    | 10 | 分担発表                          | 各執筆原稿の発表(状況報告)            |  | 年間スケジュール再確認 |
| 16 |    | 17 | 分担発表                          | 各執筆原稿の発表(状況報告)            |  |             |
| 17 |    | 24 | 分担発表                          | 各執筆原稿の発表(状況報告)            |  |             |
| 18 |    | 31 | PPT目次レビュー<br>分担確認<br>論文推敲全体確認 | 各自完成版を持ち寄る                |  |             |
| 19 | 11 | 7  | PPT目次レビュー<br>分担確認<br>論文推敲全体確認 | 全体を印刷して確認                 |  |             |
|    |    | 14 | 休講                            |                           |  | 多摩大学学祭      |
| 20 |    | 21 | PPT目次レビュー<br>分担確認<br>論文推敲全体確認 | 全体を印刷して確認                 |  |             |
| 21 |    | 28 | PPTレビュー<br>AL祭・最終発表に向けて       |                           |  |             |
| 22 | 12 | 5  | PPTレビュー<br>AL祭・最終発表に向けて       |                           |  |             |
| 23 |    | 12 | ◆アクティブラーニング祭                  | アクティブラーニング(AL)祭 (多摩キャンパス) |  |             |
| 24 |    | 19 | ◆論文最終発表                       |                           |  | 論文提出22日(火)  |
|    |    | 26 | 休講                            |                           |  |             |
|    | 1  | 2  | 休講                            |                           |  |             |
| 25 |    | 9  | 最終稿確認                         |                           |  |             |
|    |    | 16 | 休講                            |                           |  | センター試験      |
| 26 |    | 23 | ◆最終論文提出                       | 最終論文(完成版)提出日              |  |             |
|    |    | 30 | 懇親会?最終講義                      |                           |  |             |

# 参考文献・論文 全88件

## ➤ 図書全58冊

1. 寺島実郎『日本再生の基軸』（岩波書店,2020）
2. 石坂尚武『苦難と心性——イタリア・ルネサンス期の黒死病』（刀水書房,2018）
3. 黒川知文『ユダヤ人の歴史と思想』（ヨベル,2018）
4. 酒井シヅ『日本の医療史』（東京書籍,1982）
5. 杉山正明『モンゴル帝国の興亡(上)』（講談社現代新書,1996）
6. 宮崎揚弘『ペストの歴史』（山川出版社,2015）
7. Guy Richard（ギ・リシャール）『Ailleurs, L'herbe est plus verte（移民の一万年史——人口移動・遙かなる民族の旅）』（新評論,1996）
8. Jared DIAMOND（ジャレド・ダイヤモンド）『Guns, germs, and steel: the fates of human societies（銃・病原菌・鉄——1万3000年にわたる人類史の謎）』（草思社,2000）
9. William H. McNeil（ウィリアム・H・マクニール）『Plagues and Peoples（疫病と世界史）』（新潮社,1985） 他

## ➤ 論文全30件

1. 寺島実郎「大中華圏とモンゴル、その世界史へのインパクト」（『世界』第907号、岩波書店、2018年5月号）
2. 寺島実郎「新型コロナウイルス危機の本質——理性ある対応とは何か」（『世界』第919号、岩波書店、2020年5月号）
3. 脇村孝平「疫病のグローバルヒストリー——疫病史と交易史の接点」（『地域研究』第7巻第2号、2006年2月）
4. 山中伸弥「山中伸弥による新型コロナウイルス情報発信」  
(<https://www.covid19-yamanaka.com/cont11/main.html>) 他



# 以降資料

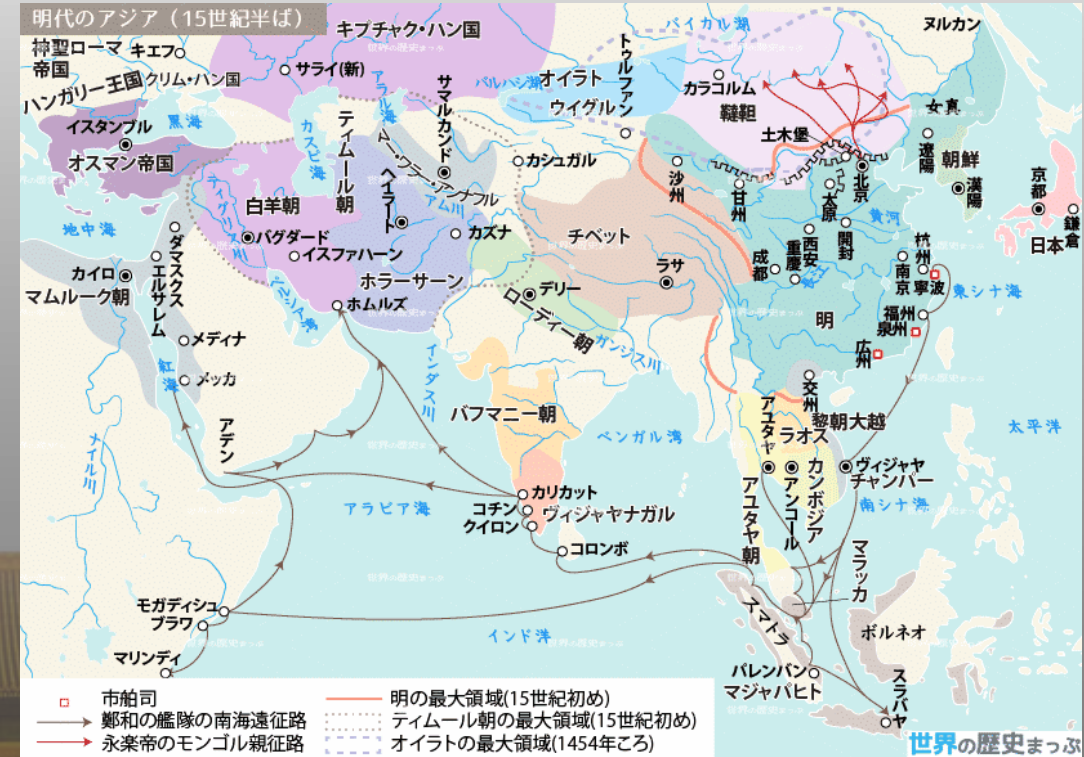
# モンゴル帝国と明朝

## 明朝の特徴

中国固有の論理で国家建設した  
社会の隅々まで統制  
謀反(むほん)や汚職を弾圧  
地主を任命し相互に監視する社会  
秩序維持のための法による強制



- 超封建的な社会により秩序を作った
- 国家統制を強め流動性の低い社会に
- ペスト時にモンゴルを追い出した
- 統制によりペスト拡大をコントロール
- モンゴルはペスト被害が大きく北に退散



明(王朝) A.D.1368~A.D.1644

漢民族の中国の王朝。紅巾の乱で頭角を現した朱元璋が1368年、金陵(のちの南京)を都として皇帝位につき、元号を洪武と定めて明を建国(洪武帝)

元朝の勢力をモンゴル高原に追いやり(北元)、江南を根拠地として中国統一

# 政治思想と感染、そして現代

モンゴルや欧州

：移動と交流が活発

→ 瞬く間に感染が広がり、  
人命や社会、経済に大きく影響

中国

：社会統制による国家管理

→ 感染は一定程度に抑えられ、  
影響は限定的

感染対策に関する政治思想の優劣を比較するのではなく、  
平時と有事に、感染拡大への対応として、歴史の事実を  
客観的に見つめ、状況に合わせた対応の切り替えが必要か

# モンゴル帝国と明朝～人口からみる～

| 戸口 | 戸 数         |               |               | 口 数        |            |            |
|----|-------------|---------------|---------------|------------|------------|------------|
| 時間 | 14 年 (1381) | 24 年 (1391 年) | 26 年 (1393 年) | 14 年       | 24 年       | 26 年       |
| 直隸 | 1,935,045   | 1,876,638     | 1,912,833     | 10,241,002 | 10,061,873 | 10,755,938 |
| 浙江 | 2,150,412   | 2,292,404     | 2,138,225     | 10,550,238 | 8,661,640  | 10,487,567 |
| 江西 | 1,533,924   | 1,566,613     | 1,553,423     | 8,982,481  | 8,105,610  | 8,982,481  |
| 湖廣 | 785,549     | 739,478       | 775,851       | 4,593,070  | 4,091,905  | 1,702,660  |
| 福建 | 811,369     | 816,830       | 815,527       | 3,840,250  | 3,293,444  | 3,916,806  |
| 四川 | 214,900     | 232,854       | 215,719       | 1,464,515  | 1,567,654  | 1,466,778  |
| 广东 | 705,632     | 607,241       | 675,599       | 3,171,950  | 2,581,719  | 3,007,932  |
| 广西 | 210,267     | 208,040       | 211,263       | 1,463,119  | 1,392,248  | 1,482,671  |
| 云南 |             | 75,690        | 59,576        |            | 354,797    | 259,270    |
| 北平 | 338,617     | 340,523       | 334,792       | 1,843,403  | 1,980,895  | 1,926,595  |
| 山东 | 752,365     | 720,282       | 753,894       | 5,196,715  | 5,672,543  | 5,255,876  |
| 山西 | 595,240     | 593,065       | 595,444       | 4,030,454  | 4,413,437  | 4,072,129  |
| 河南 | 314,785     | 330,294       | 315,617       | 1,891,087  | 2,106,991  | 1,912,542  |
| 陕西 | 285,355     | 294,503       | 294,526       | 2,155,001  | 2,489,805  | 2,316,569  |
| 合計 | 10,645,362  | 10,684,435    | 10,652,789    | 59,873,305 | 56,774,561 | 60,545,812 |

材料来源：洪武 14 年、24 年《明太祖实录》卷 140、214、26 年数学来自章潢《图书编》卷 90

明代の登録戸数と登録人口 <https://ameblo.jp/rimdom/entry-12541158361.html>

| 戸口 | 戸 数         |               |               | 口 数        |            |            |
|----|-------------|---------------|---------------|------------|------------|------------|
| 時間 | 14 年 (1381) | 24 年 (1391 年) | 26 年 (1393 年) | 14 年       | 24 年       | 26 年       |
| 直隸 | 1,935,045   | 1,876,638     | 1,912,833     | 10,241,002 | 10,061,873 | 10,755,938 |
| 浙江 | 2,150,412   | 2,292,404     | 2,138,225     | 10,550,238 | 8,661,640  | 10,487,567 |
| 江西 | 1,533,924   | 1,566,613     | 1,553,423     | 8,982,481  | 8,105,610  | 8,982,481  |
| 湖廣 | 785,549     | 739,478       | 775,851       | 4,593,070  | 4,091,905  | 1,702,660  |
| 福建 | 811,369     | 816,830       | 815,527       | 3,840,250  | 3,293,444  | 3,916,806  |
| 四川 | 214,900     | 232,854       | 215,719       | 1,464,515  | 1,567,654  | 1,466,778  |
| 广东 | 705,632     | 607,241       | 675,599       | 3,171,950  | 2,581,719  | 3,007,932  |
| 广西 | 210,267     | 208,040       | 211,263       | 1,463,119  | 1,392,248  | 1,482,671  |
| 云南 |             | 75,690        | 59,576        |            | 354,797    | 259,270    |
| 北平 | 338,617     | 340,523       | 334,792       | 1,843,403  | 1,980,895  | 1,926,595  |
| 山东 | 752,365     | 720,282       | 753,894       | 5,196,715  | 5,672,543  | 5,255,876  |
| 山西 | 595,240     | 593,065       | 595,444       | 4,030,454  | 4,413,437  | 4,072,129  |
| 河南 | 314,785     | 330,294       | 315,617       | 1,891,087  | 2,106,991  | 1,912,542  |
| 陕西 | 285,355     | 294,503       | 294,526       | 2,155,001  | 2,489,805  | 2,316,569  |
| 合計 | 10,645,362  | 10,684,435    | 10,652,789    | 59,873,305 | 56,774,561 | 60,545,812 |

材料来源：洪武 14 年、24 年《明太祖实录》卷 140、214、26 年数学来自章潢《图书编》卷 90

元の時代の1330年**推定人口は6000万人**

ペストが中国に侵入したのは1331年  
世界に蔓延したのは1347年

元から明に変わったのは1368年

明の時代の1393年推定人口は**約5000万人**



明の時代はペスト蔓延と重なる

例え戦争でモンゴルがいかに惨忍としても  
これだけの人口減少が起こるだろうか  
(マクニール、バーンスタイン)

剣よりも病原菌の方が致死率の高い兵器とも考えられる。

モンゴルは北に撤退へ